



## ブック・プレゼンテーション

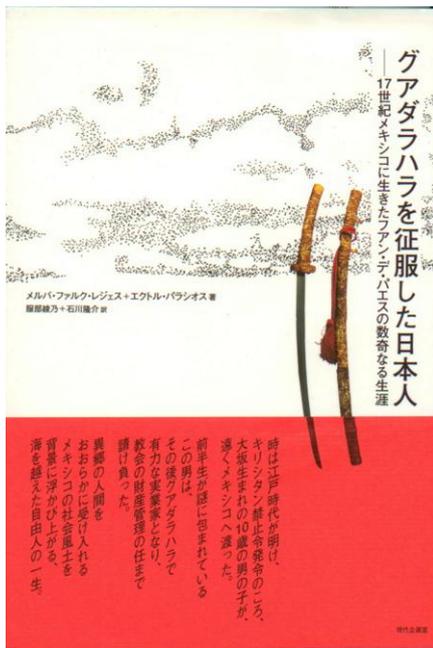
2012年3月28日

## 「グアダハラを征服した日本人

—17世紀メキシコに生きたファン・デ・パエスの数奇なる生涯—

メルバ・ファルク / エクトル・パラシオス 共著

服部綾乃 / 石川隆介 共訳



17世紀のヌエバ・エスパーニャ社会は、今では考えられないほど国際色豊かであり、四大陸間の交流によって都会的發展を遂げていた。アジア人の存在も珍しくなく、フィリピンが彼らの窓口の役目を果たしていた。当時の日本人移民に関する情報は、簡略かつ断片的なものであるが、ファン・デ・パエスとその義父ルイス・デ・エンシオに関しては、さまざまな記録が残されている。それによると、これら二人の日本人は、異国の社会に同化するためスパニッシュ・ネームを名乗り、大成功を収めていたのだった。

本書では、パエスの生涯が再現されている。パエスは、グアダハラ市の大商人、大地主、高位聖職者との親交を得て、人々から信頼される存在となったが、その歴史的背景には、中国船などの航海によって広がった環太平洋地域間の関係があった。

## [プレゼンター]

メルバ・ファルク氏：コロラド大学で博士号取得（環太平洋国際関係学）。コロラド大学ボルダー校で修士号取得。同校博士課程に学ぶ。日本研究学会メンバー、グアダハラ大学太平洋研究学科教授兼研究員。



## [コメンター]

川村信三氏：米国ジョージタウン大学で博士号取得（歴史学）。16世紀から17世紀にかけての日本におけるキリスト教史を専門とする。

林屋永吉氏：駐ボリビア・スペイン特命全権大使を歴任。在メキシコ大使館では文化担当官を務めた。1956年、友人であるオクタビオ・パスと共に、松尾芭蕉の「奥の細道」を西訳。1960年に「ポポル・ヴフ」、1982年には、「ユカタン事物記」の日本語訳を出版。1975年アギラ・アステカ勲章受賞。



場所：メキシコ大使館別館5階 エスパシオ・メヒカーノ

日時：2012年3月28日（水）18:00 - 20:00

言語：西日同時通訳

参加御希望の方は登録フォームに必要事項を明記の上、3月26日（月）必着で、fax 03-3581-4058 かメール（[stoyoko@sre.gob.mx](mailto:stoyoko@sre.gob.mx)）にてお送り下さい。なお、御来場の際には、招待状もしくは登録フォームを御持参いただきますようお願い申し上げます。